

令和7年度事業計画（美術館）

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日

公益目的事業2（展覧会事業）

1. 「酒呑童子展」の開催

- ア. 名称 「酒呑童子ビギンズ」
- イ. 会期 令和7年4月29日（火・祝）～令和7年6月15日（日）
- ウ. 概要 平安時代の武将・源頼光が悪鬼・酒呑童子を退治する説話は、14世紀以前に成立し、やがて絵画や能などの題材になって広く普及しました。なかでも、室町時代の狩野元信筆「酒伝童子絵巻」（以下、サントリー本）は、江戸時代を通して何百もの絵巻に描き写され、多大な影響を与えた古例として有名です。本展では、近年修理を終えたサントリー本を大公開するとともに、ドイツ・ライプツィヒで発見された住吉廣行筆「酒呑童子絵巻」を約140年ぶりに里帰りさせ、知られざる酒呑童子絵巻の多様な展開をご紹介します。
- エ. 展示 ・重要文化財「酒伝童子絵巻」狩野元信筆 三巻 大永2年（1522） 当館蔵
・「酒呑童子絵巻」住吉廣行筆 六巻のうち二巻
天明6～7年（1786～87） ライプツィヒ・グラッシー民族博物館蔵
・「酒呑童子絵巻下絵」住吉廣行筆 六巻
天明6年（1786） 大阪青山歴史文学博物館蔵
- オ. 備考 共催：無し

2. 「まだまだざわつく日本美術展」の開催

- ア. 名称 「まだまだざわつく日本美術」
- イ. 会期 令和7年7月2日（水）～令和7年8月24日（日）
- ウ. 概要 作品を「見る」ために展覧会へ行ったのに、キャプションを読むのに精一杯で、肝心の作品の印象が残っていない…そんな「視れども見えず」という体験はありませんか。「心がざわつく」ような展示をきっかけに、作品をよく見ることを意識して楽しみながら、日本美術のエッセンスを味わって頂く本展は、2021年開催のコレクション企画展「ざわつく日本美術」の第2弾であり、当館の名品から珍品、秘宝まで、作品を「見る」ための準備運動ができる展覧会です。
- エ. 展示 ・「袋法師絵巻」一巻 江戸時代 17～18世紀 当館蔵
・重要文化財「日吉山王祇園祭礼図屏風」土佐光茂筆 六曲一双 室町時代
16世紀 当館蔵
・「東こぎん 着物」一領 江戸～明治時代 19世紀 当館蔵
- オ. 備考 共催：無し

3. 「絵金展」の開催

- ア. 名称 「幕末土佐の天才絵師 絵金」
- イ. 会期 令和7年9月10日（水）～令和7年11月3日（月・祝）
- ウ. 概要 謎の天才絵師とも呼ばれる土佐の絵師・金蔵は、幕末明治期に多くの芝居絵屏風を残し、地元高知では「絵金さん」の愛称で長年親しまれてきました。同時代のどの絵師とも異なる画風の屏風絵は、今も夏祭りの間に高知各所の神社等で飾られ、闇の中に蝋燭の灯りで浮かび上がる芝居の場面は、見るものに鮮烈な印象を残しています。本展は東京の美術館で開催する初の大規模展として「絵金」の類稀なる個性と魅力を代表作の数々でご紹介します。
- エ. 展示 ・「伊達競阿国戯場 累」二曲一隻屏風・紙本彩色 香南市赤岡町本町二区蔵
・「花衣いろは縁起 鷺」二曲一隻屏風・紙本彩色 香南市赤岡町本町二区蔵
・「浮世柄比翼稲妻 鈴ヶ森」二曲一隻屏風・紙本彩色 香南市赤岡町本町一区蔵
- オ. 備考 共催：読売新聞社 巡回：大阪あべのハルカス美術館、鳥取県立博物館

4. 「根来展」の開催

- ア. 名称 「NEGORO 根来 一赤と黒のうるし」
- イ. 会期 令和7年11月22日（土）～令和8年1月12日（月・祝）
- ウ. 概要 いわゆる「根来」は、中世に栄華を極めた根来寺（現在の和歌山県）で生産されていたとの伝承から、後世「根来塗」と称された漆器であり、塗りの一技法でもあります。黒漆に朱漆を重ねた姿に、耐久性と美しい造形を備えた根来は、古代より寺院や神社などの信仰の場で使われ、近世以降には民衆の生活の場でも大切にされました。本展では、根来誕生の起源に迫りながら、魅力あふれる色と造形をそなえた名品群を一堂にご紹介します。
- エ. 展示 ・「朱漆塗湯桶」一合 当館蔵
・「朱漆塗瓶子」一口 当館蔵
・「朱漆塗三足鉢」一口 当館蔵
- オ. 備考 共催：無し 巡回：大阪市立美術館

収益目的事業

1. 物販事業

企画展や収蔵品をモチーフにしたオリジナルグッズの展開に加え、日々の生活に彩りを添える商品を季節ごとに投入して店舗の鮮度を維持し、お客様に繰り返し足を運んでいただけるショップを目指す。

2. 飲食事業

「加賀麩 不室屋」の歴史・伝統を活かした食事・甘味メニューに加え、季節感を取り入れたメニューを展開し、お客様層の拡大およびリピーターの増加を図る。また物販においても手土産・贈答にご利用いただける価格帯の詰め合わせを充実させ、飲食事業の売上の底上げを図る。

3. 貸室事業

「茶室」の貸出により収益を得るだけでなく、当館ならではの価値を訴求し、結果として日本のお茶文化の普及にも貢献していく。

以 上